

令和4年度 第1回

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録（案）

■日時：令和4年6月29日（水）10時00分～12時00分

■場所：フェリエ南草津5階 市民交流プラザ大会議室

■出席委員：肥塚座長、加藤副座長、岡井委員、阿部委員、田畑委員、清家委員、神部委員、東野委員、秦委員、松浦委員、木村 睦委員、伊庭委員、高木委員、笠井委員、木村 沙紀委員、小林委員、卓委員

■欠席委員：有村委員

■傍聴者：1人

■事務局：木村部長、岸本副部長、角副所長、田中参与、竹中チーフディレクター、中野ディレクター、社会計年度任用職員、布施担当課長（立命館大学地域連携課）、大藪課長補佐（立命館大学地域連携課）

1.開会

【事務局】

皆様、おはようございます。定刻になりましたので、只今より令和4年度第1回アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催させていただきます。本日は傍聴者の方が1名おられますので御了承いただきますようお願いいたします。それでは始めに、総合政策部長の木村が御挨拶申し上げます。

【木村部長】

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。UDCBKはフェリエ南草津5階に初めて設置してから今年で6年、そして現在の場所に移転してから5年が経過しようとしているところでございます。当初からこの事業運営懇話会を設置し、委員の皆様から御意見をいただいておりますが、今年度、委員改選を行い新たなメンバーで、UDCBKの事業の在り方や運営など様々な御意見をいただければ幸いです。

UDCBKは長期的な見通しを持った都市デザインを構想し、まちづくりを推進するために設立しており、草津市は現在も人口が増加している全国的にも稀な元気な都市となっております。推定では今後も令和12年頃までは増加傾向となる見通しがされていることから、UDCBKにおける長期的な見通しを持った都市デザインの構想は非常に重要となってきます。皆様とともに未来のまちの変化に対応する力を養い、都市空間のデザインへと働きかけていきたいと思っておりますのでどうか本日も忌憚のない御議論、御意見をいただけますようお願い申し上げます。

【事務局】

次に配布資料の確認をさせていただきます。まず、本日の次第、資料1（懇話会の委員名簿）、資料2（令和3年度事業報告）、資料3（令和4年度事業計画）、それとアーバンデザインスクールのチラシでございます。皆様のお手元でございますでしょうか。

それでは議事に入ります前に、委員の皆様の御紹介と事務局職員の紹介をさせていただきます。（紹介）

それでは、次第に従いまして進めてまいりたいと思います。本日の議事の進行につきましては座長の肥塚様にお願いをしたいと思います。肥塚座長よろしくお願いいたします。

【座長】

それでは進めさせていただきます。今年度は委員の改変、UDCBKのセンター長をはじめ事務局側の人事異動による交代があり、初めての懇話会となります。この懇話会はUDCBKの事業報告や事業計画について審議をしていただく場ではありますが、UDCBKの在り方、中長期的にどうしていくのが望ましいかということについても案をいただければと思っています。よろしくお願いいたします。

2. 報告

【座長】

それではこれより議事に入らせていただきます。次第の「2. 報告」でございます。「UDCBK令和3年度事業報告」につきまして、事務局からお願いします。

【事務局】

（資料の説明）

【座長】

委員の皆様から今の説明について、何か御意見や御質問等はございますでしょうか。

【A 委員】

学習事業のアーバンデザインスクールは、市民と専門家をつなぐコミュニケーターを育成することを目的にしているということで、非常に重要な事業だと思います。そのような人材はとても大事だと思いますが、これまで修了された方々の役割にはどのようなものがあるのか、教えて下さい。

【事務局】

スクール、セミナーといった学習事業を通じてまちづくりについて興味を持っていたき、さらに自身でまちづくりをやっているという方が数名おられます。また、企業

を絡めて参加されている方もおられ、UDCBKと連携し、まちづくりに役立つようなことが今ようやく生まれてきたかなという段階です。令和4年度も同じような形でそういった方々がたくさん出て来ていただけるように学習事業を進めていきたいと思っています。

【B 委員】

今の質問に関連してですが、まちづくりに興味を持って来ていただいた方々に南草津ビジョン等に参画できるようなシステムを作ってやらないといけないと思います。それから、素晴らしい先生方の講演がUDCや草津市の行政に役立っていることを考えると、市民だけでなく市の部局の方たちにも声をかけて話を聞く機会を作ってみてはどうでしょうか。市役所の職員教育のような形をとってみても良いのではないかと思います。

【事務局】

御意見いただいた内容は市の職員の教育という観点もございますので、住民、企業の方だけではなく、市の職員にも声掛けをしながら行政の施策に反映できるように進めていくべきと考えています。今年度、令和4年度第1回のスクールでは草津市の都市計画部の職員も来て連携しながら進めています。

【座長】

セミナーやスクールに参加された方々がUDCBKの事業に参加するだけではなく、草津市全般の市政に広がりをもって参画できるように、具体的に仕組みとして検討してみたらどうかという御意見でした。

【C 委員】

私は先日初めてアーバンデザインスクールに参加させていただきました。とても面白くて、過去のものも見たいなと思いました。過去の動画をアップしていただくことは出来ないのでしょうか。

【事務局】

今年度からスクールやセミナーのアーカイブ配信を実施する予定です。過去の動画に関しましてデータはございますので、御希望がございましたら個別に対応ができるように検討したいと思います。今年度からのアーカイブ配信についても広く一般向けではなく、期間限定で参加申し込みいただいた方に向けて限定的に公開する形になります。

【D 委員】

私もアーバンデザインスクールに参加して、専門的な分野の先生の貴重なお話を聞くことが出来てとても勉強になったのですが、受講後にディスカッションする時間がなかったのが残念でした。受講者の意見として、スクールの後にみんなが学んだことについて意見を共有できる場があるといいなと思いました。

【事務局】

UDCBKで参加いただければ、先生や参加者の方々とお話していただくことができます。UDCBKのオープンスペースはまちづくりの話を議論していただくことを目的とした場所ですので、そういったことに使っていただきたいと思っております。

【D 委員】

前はオンライン参加だったので、積極的に足を運んでUDCBKで参加したいと思っています。

【E 委員】

夏以降は社会実験準備事業というものがあり、それとスクールを関連付けて同じテーマでワークショップをする予定です。今まで社会実験準備事業とスクールは連動して行っていなかったのですが、今年は戦略的にやっていきたいと思っていますので、是非参加してください。それから先ほど話題に上がったスクール修了者がその後どうしていったらよいかという話ですが、UDCBKの組織の在り方を法人化も含めて考えていくうえで主体的に草津のまちづくりに関わっていただけるように、事務局の方でも具体的なプログラムを考えていく必要があるのではないかと思います。

【F 委員】

私はセミナーやスクールの受講を経てからまちづくりのワークショップに参加して、UDCBKが南草津にあることが本当に重要なことだと感じました。ワークショップでは本当にいろんな声が出ましたが、様々な意見が上がるということがアーバンデザインセンターにとって大事なところだと思うので、小さなことでもいいからやってみて形にすることが大切ではないかと思いました。それからフェイスブックやインスタグラムで情報発信をしていると思いますが、UDCBKのことを全く知らない、まちづくりに興味のない人たちに届くように、どうやって活動内容を伝えていくか、どうやって間口を広げていくかということも大切ではないか思います。

【事務局】

小さなことから少しでも草津市の取り組みに反映していくことが非常に大切なことだ

と感じております。5月に東山道公園でマルシェを開催しましたが、そういった取り組みも生まれ始めています。それからUDCBKの活動についての情報発信は今のところ少ないと感じております。今年の1月からInstagramを開設しましたがSNSを活用して広く情報発信をしていくと同時にそういったものを使わない世代に向けても伝えていく方法を考えていくべきだと思っています。

【D 委員】

UDCBKの利用者アンケートですが、UDCBKの約8割がセミナーやスクールに参加したことがない一方で利用目的の5割が学習という結果が出ています。学習以外でセミナーやスクールに参加していない人の利用目的は何であると分析していますか。利用者がUDCBKに関心がないということに、もったいないと思ったので質問させていただきました。

【事務局】

学習以外の利用目的は打ち合わせまたは休憩です。利用者がセミナーやスクールの参加につながっていないという現状がUDCBKの課題であると感じておりますので、利用いただいている方にいかに参加していただくか仕組み等を検討していきたいと考えております。

3. 協議

【座長】

続きまして、次第の「3. 協議」でございます。「UDCBK令和4年度事業計画」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料の説明)

【座長】

委員の皆様から協議内容について、何か御意見等がありますか。

【G 委員】

事業プロジェクトの方で交通対策事業としてUDCBKと都市計画部が連携を進めていくということですが、連携の具体的な内容がある程度書かれていると良いと思いました。どういう形で連携しようとしているのかイメージが湧かなかったので教えて下さい。それからアーバンデザインスクールについて、第1回に50人程集まったということで

すが、その内訳、オンラインと対面の比率がどのくらいだったのか、教えて下さい。昨年の資料をみるとコロナの影響で参加者のほとんどがオンラインで、対面が1、2人程でしたが、そろそろコロナも落ち着いてきたので出来る限り対面で来ていただけるような進め方を考えていく必要があると思います。今日はアーバンデザインスクールの出口のお話が出ていましたが、ここでの最終目的は学ぶということだけではなく、そこで学んだことが実際のまちづくりに活かされていくことで、そのための学びということ考えると、対面で同じテーマについて関心を持って集まってきた人同士のつながりづくりというのは、私も自分の授業で大切にしていることです。こういうスクールで連続して集まって何かをやろうという人たちが対面で学びあっているようなワークショップ等につながることが、まちづくりへの市民参加につながっていくのではないのでしょうか。ここ2、3年それが出来なくて、今年あたりからそろそろと思っているのですが、そういうことも含めて事業計画を立てていってもらいたいと思います。それから、スクールに連続して参加してもらいたいと思った時に、開催する曜日と時間を固定することは大事だと思います。時間帯についても16時から開始というのは適切なのか、家庭を持つ方は食事の支度、仕事では帰る間際の忙しい時間帯ではないのでしょうか。少しでも多くの人たちが対面で参加できるような環境づくりを、ぜひ期待したいと思います。

【事務局】

まず一つ目の都市計画部との連携ですが、今年度都市計画部で南草津駅のロータリーの改修について基本設計をされるということです。南草津駅周辺の交通渋滞が草津市にとって課題になっていて、ロータリーの改修を計画しています。その基本設計をする際に公共空間をどのようにしていくのか、公共交通をどのようにしたらよりスムーズにいくのか、市の内部だけではなく、UDCBKとしてもいろいろな先生方や企業の知識や知恵を活用させていただいて、その意見を反映させたいと考えております。まずそこが都市計画部との連携ということです。二つ目のアーバンデザインスクールについてですが、第一回目の参加者はオンラインで40名くらい、対面は10数名でした。昨年と比べると対面での人数が回復してきたように感じます。もっと対面での人数を増やしてその場で議論できるようなつながりを作ることが非常に重要だと思いますので、今後努力していきたいと思っています。それから開催の曜日と時間については講師の先生方の都合もあり苦慮したところですが、16時から開始というのはこちらの狙いもあります。市民の方の都合もあると思いますが、どちらかというと企業の方は勤務時間中の方が参加しやすいかなということもありましたので、この時間に設定させていただいたというのが実状です。

【E 委員】

補足です。今回はスクールに都市計画関連の職員の方4、5人に参加してもらいました。今までUDCBKと市の職員が連携して共同で駅前広場について考えていくということが出来ていなかったのが、今年度はやりたいと思っていました。職員の方も対面で参加できるような時間にしたのは実務的な需要だと思っています。その他の人をないがしろにするということではなくて、試みです。こういった話はスクールだけで完結するものはないので、UDCBKで参加できない方にはオンラインやアーカイブ配信を併用していただいて、またUDCBKでの別の機会でも議論したいと思っていますので、うまく相乗効果でやっていければいいかなと思っています。

【座長】

時間については昨年度も一昨年度もほぼ毎回論点になっていて、試行錯誤を続けています。例えば、お昼の時間帯の方が参加しやすいのではないか等、いろんな意見がありますが、今後もコロナの状況を確認しながら、さらにより多くの方が参加しやすいように考えていきたいと思います。

【H 委員】

アーバンデザインスクールを修了した方がまちづくりに参画する仕組みのところ、阿部先生の取り組みは非常に重要だと思うので注視しています。このような人材を育成するためにはインプットしたことをアウトプットしていくことが必要であると思いますが、その期間が足りないように感じます。今までのスクール修了者の人数を把握してアドバンスコースのような形で学習プログラムを設定するやり方もあるのではないかと思います。スクールの後ワークショップに参加して、地域に戻って何かやりましょうというのは難しいし、一緒に学んだ仲間と今後のモチベーションの問題もあると思うので、スクール修了者のフォローアップとアドバンスコースのようなものを用意してもいいのではないかと思います。

【事務局】

フォローアップについてですが、確かにスクールを修了した後にすぐにまちづくりに参画していくのはなかなかハードルが高くて難しいと思います。こういった形でフォローアップしていくかということ、今の段階でそういったものは持っていないのですが、いろいろとUDCBKの中でも考えながら進めていければと思っています。

【I 委員】

情報発信について、私も委員をしているのでUDCBKのフォロワーになっているのですが、ほとんど情報が来ない状況です。市が運営していることもあってなかなか難し

いとは思いますが、例えば学生に企画運営を任せてみるとか、もっと自由な発想でいろんな情報発信をしていくべきではないでしょうか。もっと更新回数を頻繁にするような運営方法を考えた方が良いのではないかと思います。それから法人化についてはあまり話題になっていないようですが、法人化する方向で進んでいると思ってよろしいのでしょうか。違う形態を模索しているのか、お聞かせください。

【事務局】

1月からInstagramを始めて幅広く情報発信に努めているものの、まだまだ皆さんに情報が届いていないというのが現実であると思います。学生に企画運営を任せるといっても、検討はしたいと思いますが、なるべく簡単な形ででも情報発信ができるような取り組みをしていきたいと思っています。法人化についてですが、今現在、法人化するといったことはございません。全国的にみても市が運営しているところは非常に少ないという現状ですので、課題も多いです。法人化というのは一つの方向性であるということで、組織形態を今後どうするかということを議論して決めていきたいと考えているところでございます。

【I 委員】

うちの子は大学生ですが、テレビや新聞はほとんど見ません。TikTok とか Youtube とかしか見ていないので、年代によって情報を得られる媒体は違うと思います。そういう世代に向けた情報発信は考えていただいた方が良いと思いました。

【事務局】

参考にさせていただきたいと思います。

【J 委員】

セミナー、スクールの件ですが、これまで参加いただいた方がどういう属性の方なのかということはしっかり把握をした方が良いと思います。参加人数が多いとかそういうことも大事かもしれませんが、地元のまちづくりに関与してくれそうな人たちなのか、遠くの地域から無料だから参加してみるという単に勉強したいだけなのか。UDCBKがお金をかけてやるからには、このまちを良くしたいというターゲットに向けてやるべきだと思いますので、そういった意味で時間設定も考えるべきではないかと思います。それからセミナーやスクールをやって終わりというだけではなくて、人と人とをつなぐ役割をUDCBKが担っていくべきだと思いますので、そういったことも事務局の宿題ということで今後検討していければと思っています。情報発信の件ですが、UDCBKのホームページが市の組織の一部という形になっていて大変見にくいように思います。ホームページを市役所のページの中に属するのではなく、独立した形で設定できないもの

か、検討していただくことは出来ないでしょうか。

【事務局】

今回の第1回スクールについて、アンケートで属性を集計しています。他県から参加されている方も数名おられましたが、草津市在住でまちづくりに参加したいと記入されている方もおられます。そういった方々に対してどういったアプローチをしていくか、地元のまちづくりに参加していただけるように尽力していきたいと思っています。またホームページについてですが、市との兼ね合いもありますが検討していきたいと思っています。

【F 委員】

法人化検討について、もし実現した場合、収支のバランスはとれるのでしょうか。そうすると会員制になってセミナーやスクールが有料になるとか、また人件費の問題とか心配になりました。他の全国のUDCの運営、収支はどのようになっているのか教えていただきたいです。また、今までの法人化検討の中で出てきたメリットとデメリットにどのようなものが挙げられたか、教えて下さい。

【事務局】

分かる範囲で申し上げますと、財源面と人材面が大きな課題となっています。他のUDCは企業と連携しながらやっていたり助成金を取り込んでいたり、事業をすることで収益をあげて財源を確保しています。法人化に伴ってセミナーやスクールが有料化するようなことはあり得るかもしれません。課題としては財源と人材、これをクリアできないと法人化はなかなか難しいと考えています。

【座長】

法人化については今までも検討してきてデータや他のUDCから収集したアンケートもありますので、きちっとした形で情報提供できるようにしたいと思います。

【K 委員】

社会実験準備事業のところで当初提示されていたテーマの数より実施予定のテーマが少ないように思いますが、応募がなかったのでしょうか。それからオープンスペースの実績報告の利用者数が令和2年から令和3年にかけて前半は増えているものの後半は減っているように感じます。何か意味があるのでしょうか。それとオープンスペースの認知度ですが、南草津駅の東側の玉川学区でUDCBKについてたずねても、ほとんどの方がどこにあるか分からないという回答でした。地元の方もほとんど知らないような状況です。少しPRが不足しているように思いますが、どう思われますか。

【事務局】

社会実験準備事業の数ですが、このテーマに応募が少なかったということです。またオープンスペースの利用者数の令和2年度と令和3年度の違いについては分析ができておりませんので、分からない部分でございます。玉川学区につきましては毎月会議に参加してPRさせていただいているのですが、玉川学区、老上西学区ともにもっと広く取り組んでいこうと思っております。

【L 委員】

事業プロジェクトのところで南草津駅前には特に鉄道を中心とした交通の要所で開発など活気があると思うのですが、一方で滋賀県は車社会なので笠山方面に田上インターや立命館大学があったり文化ゾーンがあったりポテンシャルの高い地域だと思っています。鉄道の要所、車の要所、それぞれの拠点。これをうまく相乗効果で駅前だけでは解決できなかったことが解決できるといったいろんな可能性があるように思います。

【事務局】

南草津ビジョンに、草津パーキングエリア文化ゾーン周辺エリアの活性化もひとつあげさせていただいております。確かに南草津駅周辺は渋滞などの課題を抱えておりますが、こういったパーキングとの連携をすることで公共交通をうまく回せるような形が取ればそういったことも可能でございますので、南草津ビジョンの施策の中にそういった方向性を見据えながらUDCBKも関わっていき、課題が解決できるような議論を進められるように考えているところです。

【M 委員】

私は今回初めて参加したのでUDCBKがどういう組織かあまり認識がなかったのですが、懇話会を通して感じたのは、都市計画のハードウェア面と南草津の人が生活をどう楽しんでくれるかというソフトウェア面があって、後者で子育て世代など若い人を集客するなら、カッコいいインスタが作れる講習会や隠れた観光地の情報発信ができるとセミナーに集まる方が増えるかもしれません。ハードウェア面でいうと、法人化しようがしまいが、市がお金を出してやらざるを得ないという側面があります。一方、ソフト面に関しては自助努力の余地があるので、両方の側面から考えていくことが法人化につながっていくかと思いました。

【座長】

UDCBKの役割としてハードとソフトをどう繋げていくのかということは大変重要でありますので、そういった観点から事業を進めていけるようにやっていきたいと考えております。

【N 委員】

大学生が住むまちプロジェクトで。地域の魅力につながるとありますが、具体的にどのようなことを実施するのか知りたいです。6月に私の住んでいるまちのまちづくりセンターが子ども食堂というプロジェクトを開催しており、私も協力しましたが、メンバーのほとんどが地域の高齢者の方々でした。せっかく草津に大学があって子どもの遊び相手として大学生の若い力を借りたいという思いがありますが、どうやってつながればよいか分かりません。地域の人が居場所にしたいと思っているところに、このプロジェクトを通して大学生に草津市を第2の故郷と思ってもらえるようなまちづくりができればいいなと思っています。

【事務局】

草津には約7000人の大学生が住んでいると資料に書かせていただいています。大学生がコミュニティカフェをして地域の方々と一緒に事業をしている例もありますので、セミナーなどを通じて学んでいただくといったこともできます。または小さな企業とつながって、関わり続けている大学生もいます。具体的にお話に挙げた子ども食堂についてどうするかという答えは持ち合わせていないのですが、そういったことを考えている大学生はおられると思いますし、立命館大学には食マネジメント学部がありますので、そういったところとの連携でつながることができれば力になってくれることもあるのではないかと思います。

【座長】

立命館大学には職員、学生、いろんな人がいて地域連携課もあります。立命館大学に限らず今のような活動に協力できそうな大学がたくさんありそうですので、つながっていったらいいなと思っています。

【副座長】

資料に、産学公民の英知を組織化とあるが、どういう意味を示しているでしょうか。

【事務局】

産学公民の連携によるまちづくりがUDCの目的になりますので、一層、連携を深めていきたいという意味になります。

【副座長】

切り口や突破口など、私どもの方でも協力していきたいと思っています。

【座長】

本日のいただいたご意見を反映させていただき、進めてまいりたいと思います。最後に事務局から、今年度、特に進めていくポイントなどは説明いただきたいと思います。

【事務局】

事業内容につきましては昨年度から大きく変更はございませんが、アーバンデザインセンターびわこ・くさつとして今年度注力していきたいと考えていることがございますのでご説明をさせていただきます。一つ目に、UDCBKは産学公民が連携し都市デザインを構想していくためのプラットフォームでございますが、これまで産業界との繋がりが弱く連携が十分にできてなかったこともございますので産業界との繋がりを深めプラットフォーム機能の強化に注力していきます。二つ目にUDCBKは長期的な見通しを持った都市デザインを構想していきますが、UDCBKでの事業を市の施策に反映させていくことに注力し、特に市都市計画部との連携を深めながら事業を進めていきます。また当センターの組織形態につきましても昨年度実施した検討を基に、更に深めていきたいと考えております。三つ目にオープンスペースを含めたUDCBKの運営に関することでございますが、過去の懇話会においても話題となっておりますオープンスペースについては利用される方々にもUDCBKの理念を理解いただき事業参画の機会を増やしていきたいと考えております。

4. 閉会

【座長】

皆様からたくさん御意見いただきましてありがとうございました。委員の皆様にはスムーズな議事の進行に御協力賜り誠にありがとうございました。これで全ての議事は終了いたします。それでは事務局へ返します。

【事務局】

委員の皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただき、貴重な御意見ありがとうございました。本日いただきました御意見を今後のUDCBKの運営および事業展開に反映してまいりますので、引き続きお力添えくださいますようお願い申し上げます。それでは本日の運営懇話会を閉会させていただきます。皆様、どうもありがとうございました。